

# 「真実突き止める」に信頼



中央省庁の官僚は「しんぶん赤旗」を非常に注意深く読んでいます。ちゃんと事実に基づいて報じられていますから。「赤旗」に新しい指摘が出ていると、役所の側もこれは調べなければなりません」

元文部科学事務次官  
前川 喜平さん

## 「赤旗」創刊94周年 22.2.1に寄せて

「中立」を装っています。それは幻想です。実際、各新聞は社説で同じ事柄を取り上げてても書く内容が全然違う。絶対的な「中立」なんて存在しないのです。

いま新聞など大手メディアは「中立」を装っています。それは幻想です。実際、各新聞は社説で同じ事柄を取り上げてても書く内容が全然違う。絶対的な「中立」なんて存在しないのです。

中立的性を意識するあまり、本当のことを言っている人とうそをついている人を、同列に並べて報じているところとが起きています。これはジャーナリズムではない。洋の東西を問わず平気でうそをつ

く政治家はたくさんいます。何が真実であるか突き止めるのがジャーナリズムです。その中で「赤旗」は真実を突き止めるということを一生懸命、地道にやっています。だからこそ信頼性があります。

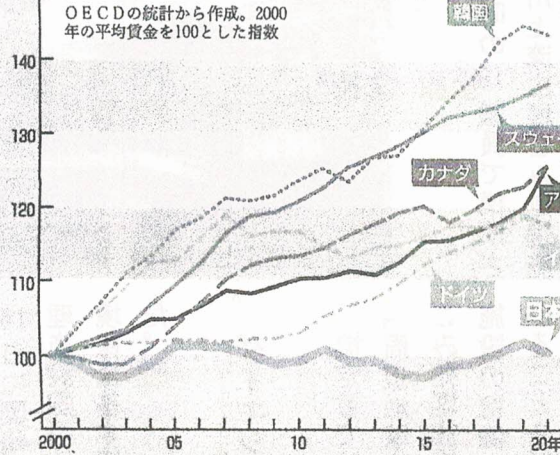
総選挙の野党共闘は画期的でした。絶対にやめてはいけない。憲法を守る政治が、憲法を壊す政治か、対立軸は明確です。共産党以外の野党に「赤旗」のような報道機関はありません。立憲野党による共闘のベースになるファクトをちゃんと集めておく役割は「赤旗」しかない。野党共闘を進めるうえでも非常に大事な役割を果たしています。

（聞き手 三浦誠）

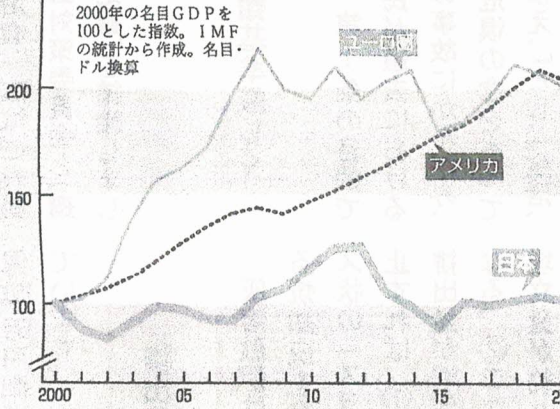
## 人に冷たく弱い日本経済

歴代自民政権は、財界の要求にこたえて労働法制の規制緩和、社会保障費の連続削減、大企業・富裕層減税と一体の消費税の連続増税など、新自由主義的政策を行ってきました。大企業は労働者をモノのように切り捨て、技術開発の土台を自ら破壊し、いっその経営悪化への悪循環をつくりだしました。その結果、日本経済は「もろく弱い経済」となり、日本を「賃金が上がらない国」「成長ができない国」「競争力が弱い国」にしてしまいました。

### 賃金が上がらない日本



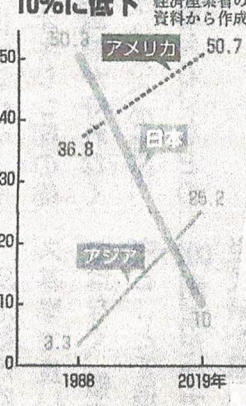
### 成長できない日本



### 競争力の弱い日本



### 日本の半導体シェア10%に低下



# いま赤旗がおもしろい

「一部が富を独占」ではなく、世の中全体にお金が回れば経済も成長

この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。

### こちらから経済部

東京都庁前、食料支援活動の一翼を担うのは20人ほどのボランティアスタッフです。SNSなどで活動を知った社会人や大学生が高架下集まっています。

支援当日。バナナ、冷凍食品、パンと、仕分けされた食料を一つ一つ袋詰めしていくスタッフたち。その傍らで、配布を待ちわびる人々の列がどんどん膨れ上がっていきます。困り事の相談に親身に寄り添うのもボランティアの役割です。

「今何が起きているのか

### 社会変革のエネルギー

自分の目で確かめたかった

そう語る男性スタッフの目に、長蛇を成す500人超の姿が映ります。

年齢も職業も異なるボランティアたちを突き動かすもの。それは、この社会への憤りです。

「こんなに多くの人々が食料配布に並ぶとこの国の現状を放置しておくわけにはいきません」

女性スタッフの言葉は、社会変革へのエネルギーを秘めていました。(小村)



同志社大学教授  
浜 矩子さん

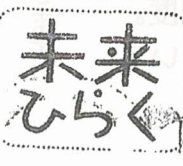
志位和夫委員長の代表質問で非常に面白かったのは、「新自由主義の『自由』は、国民にとっての『自由』ではなく、大企業のもうけの『自由』ではないか」という追及です。

日本を世界で一番大企業が活動しやすい国にする

ることが安倍政権以来の基本方針です。これを擁護する岸田文雄首相は、いいかげんな答弁しかできませんでした。

新自由主義が「強い経済」を目指した結果、逆にもろく弱い経済をつくらせたという指摘も同感です。

7画に続く



お申し込みは黒田みちまで  
(090-9987-7909)